

## (令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都市生涯学習振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

## 基本事項

所管局課	教育委員会生涯学習部 施設運営担当	本市出えん金	80,000 千円
基本財産/資本金	80,000 千円	本市出えん率	100.0 %

## 当年度の取組目標

業務面	<p>目標1 「多様な生涯学習機会の提供」 市民の学習ニーズを踏まえ、大学・関係機関等と連携し、文化・歴史・芸術・健康・生活・科学など幅広い分野について、魅力的かつ多様な生涯学習講座を実施する。 また、コロナ後の新しい生活様式を踏まえた学習環境の改善及び利用者へのサービス向上に努める。 具体的には、コロナ禍での事業経験をもとに、講演会の映像配信や講座予約等の幅広いインターネット活用の促進、平安京創生館での多言語音声解説の設置など新しい生活様式に即した豊かな市民生活の実現に向けた事業展開を行う。</p> <p>目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」 新しい生活様式を踏まえ、来館や一定時間の滞在にとどまらない図書館サービスの提供を含め、利用者の利便性の向上に取り組むとともに、市民のニーズや読書スタイルの変化に対応した魅力ある図書館づくりに努める。 パスワードを取得していれば、来館することなく図書館のホームページから、資料の予約、貸出延長、貸出や予約状況の確認が可能であることから、その利便性の周知に努め、取得者の増加を図る。普段からホームページを活用いただくことは、コロナ禍で重要な緊急時の情報をより多くの方に伝えることにも繋がる。</p>
財務面	<p>目標 「事業運営費の抑制」 京都市が直接事業を行うことに比べ、当財団で「生涯学習事業及び図書館事業」を受託することにより、人件費等を含めた事業費が約7割に抑えられていることを踏まえつつ、今後も正規職員の少数精鋭化を進めるとともに、司書資格を有する嘱託職員等及び経験豊富な退職再雇用職員を積極的に活用するとともに、業務の効率化を進め、事業運営費全体の縮減に繋げる。 また、引き続き、働き方改革の取組を踏まえ、職員が勤務終了時間を厳格に意識し、メリハリをつけて業務に臨むとともに、定められた時間内に通常業務が展開できるように効率的な執行に取り組み、時間外勤務の縮減を図る。</p>
組織面	<p>目標 「財団職員による自立した組織運営体制の推進」 機能的且つ効率的な事業推進のための体制を整え、再雇用職員等の活用を推進し、経験によるスキル・ノウハウの蓄積を図ることで、業務の質を維持・発展させる。また派遣職員の縮減が進められるなか、財団固有職員の所属長配置を促進させ、財団職員による安定した組織運営体制を進める。</p>
その他	<p>目標 「専門性の高い事業展開を継続して促進するための取組の実施」 永年にわたる生涯学習事業及び図書館事業を実施する中で、公共性と専門性の高い取組を実現し、柔軟性及び効率性という点でも大きな成果を示してきた。 こうした質の高い事業を展開する財団として、一定水準以上の事業を継続させるにあたり、職員の採用活動において司書資格者の採用や資格取得の推進に、待遇面での追加補填を行うことなく取り組み、専門性の高い職員がそのスキルを活かした事業展開や組織運営を実行できる体制を継続して進める。</p>

(公財)京都市生涯学習振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

### 当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>生涯学習の振興を担う財団の自覚と責任のもと、コロナ禍においても生涯学習の果たす役割を理解し、多様な生涯学習の機会を提供できるよう創意工夫を凝らしながら、柔軟に事業展開できるよう計画している。新しい生活様式を踏まえ、これまでの図書館サービスの利便性を検証し、更なる向上につなげていることや市民の読書ニーズに応えるために様々な方策を講じながら魅力ある図書館づくりに取り組むことができている。</p> <p>また、財務面では効率的かつ効果的な職員構成を計画的に持続させることにより、人件費が抑制できており、中・長期的な組織計画の安定性がうかがえる。</p> <p>さらに、組織体制の基盤となる職員の人材育成にも重点が置かれており、持続可能な生涯学習の推進を担える法人としての取組が期待できる。</p>
-----	--

### 当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	<p>コロナ禍が続く中でも、会場定員を半数にしたり、人と人の距離をとるなど、感染対策を講じることで、令和2年度は中止していた事業の多くを展開することができ、事業参加者数等も令和元年度には及ばないものの回復傾向にある。一方で、図書館などでは、動画配信やSNSでの情報発信を進めるとともに、来館してのサービスが縮小された期間が長かったことも影響し、「必要な資料をインターネットで予約し、最寄りの図書館へ取り寄せてから来館する」という利用傾向がより顕著となった。</p> <p>組織面については、派遣職員の縮減とともに、財団固有職員の所属長登用が進み、財団職員が法人運営を担っていく体制が培われてきている。</p>
所管局	<p>財団職員の専門性の能力向上を図る人材育成にも継続して取り組んでいるほか、派遣職員の削減に伴う財団固有職員の補職者への登用が計画的に実施できており、組織運営体制の基盤が着実に強化されている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響から令和2年度に中止していた多くの事業を、感染症対策を講じながら再開することができている。</p> <p>図書館のサービスを縮小していた期間に開始した合理的な利用方法が有効となるなど、市民ニーズを感知しながら利便性の向上に努めるとともに、生涯学習の様々な機会の創出に取り組むことができている。</p>

### (1)業務に関する取組

#### 目標1「多様な生涯学習機会の提供」

当年度目標	<p>市民の学習ニーズを踏まえ、大学・関係機関等と連携し、文化・歴史・芸術・健康・生活・科学など幅広い分野について、魅力的かつ多様な生涯学習講座を実施する。</p> <p>また、コロナ後の新しい生活様式を踏まえた学習環境の改善及び利用者へのサービス向上に努める。</p> <p>具体的には、コロナ禍での事業経験をもとに、講演会の映像配信や講座予約等の幅広いインターネット活用の促進、平安京創生館での多言語音声解説の設置など新しい生活様式に即した豊かな市民生活の実現に向けた事業展開を行う。</p>
当年度結果(※)	<p>生涯学習総合センターでは、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、昨年度より多くの生涯学習講座を実施することができたが、臨時休館による一部講座の中止や講座の入場定員を昨年度に引き続き半数以下にしたことなどにより事業参加者数は目標には届かなかった。</p> <p>一方、平安京創生館に展示している平安京復元模型に音声ガイドシステムを新たに設置し関連する講座を行うなど、開館40周年の節目にサービス向上の取組を進めることができた。</p>

指標1	事業参加者数(コロナ禍からの再生) (単位:人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
				175,800		62,000	100,000	76,000

## (令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都市生涯学習振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

## 目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」

当年度目標	<p>新しい生活様式を踏まえ、来館や一定時間の滞在にとどまらない図書館サービスの提供を含め、利用者の利便性の向上に取り組むとともに、市民のニーズや読書スタイルの変化に対応した魅力ある図書館づくりに努める。</p> <p>パスワードを取得していれば、来館することなく図書館のホームページから、資料の予約、貸出延長、貸出や予約状況の確認が可能であることから、その利便性の周知に努め、取得者の増加を図る。普段からホームページを活用いただくことは、コロナ禍で重要な緊急時の情報をより多くの方に伝えることにも繋がる。</p>
当年度結果 (※)	<p>令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予約資料の貸出等一部サービスのみの開館（4月25日～5月31日、8月20日～9月30日）や開館時間短縮等、サービスを余儀なくされた。ただし、利用者の利便性の向上に努めた結果、「必要な資料をインターネットで予約し、最寄りの図書館へ取り寄せてから来館する」という合理的な利用方法が、コロナ禍において外出しづらい状況が続くなか更に浸透し、予約冊数及び図書館資料の流通点数の大幅な増加に繋がった。</p> <p>また、図書館ホームページを活用いただくために必要なパスワードの登録率は、令和2年度の47.9%と比較して、令和3年度は50.6%となり、2.7ポイント増加した。</p>

指標1	図書館資料の予約冊数 (単位：冊)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
		1,909,000		1,990,000		1,954,000	1,964,000	2,486,020

指標2	京・ライブラリーネットの充実による図書館資料の流通点数 (単位：冊)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	2,991,000	3,289,000	2,994,000	3,405,000	2,997,000	3,201,000	3,204,000	3,783,704

## (2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位：千円)							
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	1,652,682	1,658,149	1,698,739	1,666,214	1,685,880	1,663,706	
経常費用	1,709,612	1,647,902	1,696,931	1,661,302	1,684,962	1,637,982	
当期経常増減額	△ 56,930	10,247	1,808	4,912	918	25,724	
当期正味財産増減額	0	9,348	108	2,250	118	25,013	
資産合計	-	780,264	-	802,194	-	764,076	
負債合計	-	660,192	-	679,872	-	616,740	
正味財産	-	120,072	-	122,322	-	147,336	

## (令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都市生涯学習振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

## 目標「事業運営費の抑制」

当年度目標	<p>京都市が直接事業を行うことに比べ、当財団で「生涯学習事業及び図書館事業」を受託することにより、人件費等を含めた事業費が約7割に抑えられていることを踏まえつつ、今後も正規職員の少数精鋭化を進めるとともに、司書資格を有する嘱託職員等及び経験豊富な退職再雇用職員を積極的に活用するとともに、業務の効率化を進め、事業運営費全体の縮減に繋げる。</p> <p>また、引き続き、働き方改革の取組を踏まえ、職員が勤務終了時間を厳格に意識し、メリハリをつけて業務に臨むとともに、定められた時間内に通常業務が展開できるように効率的な執行に取り組み、時間外勤務の縮減を図る。</p>
当年度結果 (※)	<p>令和2年度はコロナ禍において、臨時休館や開館時間の短縮をはじめとした大幅なサービス縮小を余儀なくされたこともあり、時間外勤務を大幅に抑制できていた。多くの事業を展開できるようになった令和3年度においても、職員への働き方改革の取組を意識づけることで、業務の効率化を図ることにより、令和2年度と変わらず時間外勤務を抑制することができた。引き続き、一層効率的な業務執行に取り組み。</p>

指標	正規職員数 (年度当初) <span style="float: right;">(単位:人)</span>							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	114	112	112	112	112	112	111	110

## (3)組織に関する取組

## 目標「財団職員による自立した組織運営体制の推進」

当年度目標	<p>機能的且つ効率的な事業推進のための体制を整え、再雇用職員等の活用を推進し、経験によるスキル・ノウハウの蓄積を図ることで、業務の質を維持・発展させる。また派遣職員の縮減が進められるなか、財団固有職員の所属長配置を促進させ、財団職員による安定した組織運営体制を進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>財団固有職員の課長級登用を進め、ベテランの司書を図書館長として5館の地域図書館に配置。係長・課長補佐級職員もすべて財団固有の職員で配置されており、各施設の実務に習熟した財団職員が所属を主導する体制が一層進められている。今後も、財団固有職員の所属長登用を進め、組織運営を担える人材の育成を推進する。</p>

指標	財団固有職員の課長級登用数 (年度当初) <span style="float: right;">(単位:人)</span>							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
		3		4		6	6	7

## (令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都市生涯学習振興財団	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
-----------------	-----------------------

## (4)その他の取組

## 目標「専門性の高い事業展開を継続して促進するための取組の実施」

当年度目標	<p>永年にわたる生涯学習事業及び図書館事業を実施する中で、公共性と専門性の高い取組を実現し、柔軟性及び効率性という点でも大きな成果を示してきている。</p> <p>こうした質の高い事業を展開する財団として、一定水準以上の事業を継続させるにあたり、職員の採用活動において司書有資格者の採用や資格取得の推進に、待遇面での追加補填を行うことなく取り組み、専門性の高い職員がそのスキルを活かした事業展開や組織運営を実行できる体制を継続して進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>司書有資格者や図書館所属経験者を統括部署や事業館所属へ配置することで、所属の現状にあった制度設計や組織運営を効果的に進められるほか、将来的に所属マネジメントを行う人材の育成に努めている。また、司書の専門性を生かし、内部・外部を問わず、研修や講座の講師を財団職員自らが担うことにより、専門性を育むとともに、後進を育成するリーダーとしての資質向上を図っている。</p>

指標1	財団職員の資格保有率（司書） <span style="float: right;">(単位：%)</span>							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	73	75	74	74	74	76	75	74

指標2	職員が講師を務める講座・研修等の実施回数 <span style="float: right;">(単位：回)</span>							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	/	60	/	53	/	11	20	27